

(様式7)

公共事業継続箇所評価調書

評価確定日 (平成24年09月28日)

事業コード	H24-建-継-01		区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	地方街路交付金事業		部局課室名	建設部 都市計画課
事業種別	二次改築 (現道拡幅)		班 名	都市整備班 (tel) 018-860-2444
路線名等	都市計画道路 千秋広面線		担当課長名	吉尾 成一
箇所名	秋田市手形		担当者名	主幹兼班長 佐藤 幸悦
総合計画との関連	政策コード	17	政策名	新たな生活圏の創造
	施策コード	01	施策名	街なか活性化による賑わいの再生
	指標コード	02	施策目標(指標)名	街なか居住の促進

1. 事業の概要

事業期間	H08 ~ H29 (22年)	総事業費	40.0 億円	国庫補助率	7/10																																																												
事業規模	延長L = 540m 幅員W = 25.0m (車道部16.0m、歩道4.5m×2)																																																																
事業の立案に至る背景	本路線は、JR奥羽本線により東西に分断された秋田市街地を連絡する主要幹線道路であり、市街地へ流入する交通により慢性的な渋滞が発生している。そのため本路線を拡幅し、交通混雑の緩和を図るものである。																																																																
事業目的	○鉄道との立体交差 ○中心市街地の活性化 ○交通混雑の緩和 ○都心環状道路の整備 ○第三次救急医療施設 (秋田大学附属病院、県立脳血管研究センター、秋田県成人病医療センター、秋田赤十字病院) へのアクセス改善																																																																
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>計 画 時</th> <th>評 価 時</th> <th>増 減</th> <th>理 由 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>4,000,000</td> <td>4,000,000</td> <td>0</td> <td>前回評価時 3,688,000千円</td> </tr> <tr> <td>経費</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 工事費</td> <td>2,235,000</td> <td>2,259,000</td> <td>24,000</td> <td>支取替等橋梁補修工の追加</td> </tr> <tr> <td> 用補費</td> <td>1,368,000</td> <td>1,340,000</td> <td>-28,000</td> <td>土地単価の下落等による減</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>397,000</td> <td>401,000</td> <td>4,000</td> <td>設計費の増等</td> </tr> <tr> <td>財源</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td> 国庫補助</td> <td>2,146,000</td> <td>2,322,500</td> <td>176,500</td> <td>国費率の増</td> </tr> <tr> <td> 県債</td> <td>1,531,000</td> <td>1,365,600</td> <td>-165,400</td> <td>国費率の増</td> </tr> <tr> <td> その他</td> <td>240,000</td> <td>240,000</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 一般財源</td> <td>83,000</td> <td>71,900</td> <td>-11,100</td> <td>国費率の増</td> </tr> <tr> <td>事業内容</td> <td>調査設計 用地補償 橋梁上下部工</td> <td>調査設計 用地補償 橋梁上下部工</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	事業費	4,000,000	4,000,000	0	前回評価時 3,688,000千円	経費					工事費	2,235,000	2,259,000	24,000	支取替等橋梁補修工の追加	用補費	1,368,000	1,340,000	-28,000	土地単価の下落等による減	その他	397,000	401,000	4,000	設計費の増等	財源					国庫補助	2,146,000	2,322,500	176,500	国費率の増	県債	1,531,000	1,365,600	-165,400	国費率の増	その他	240,000	240,000	0		一般財源	83,000	71,900	-11,100	国費率の増	事業内容	調査設計 用地補償 橋梁上下部工	調査設計 用地補償 橋梁上下部工		
	計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等																																																													
事業費	4,000,000	4,000,000	0	前回評価時 3,688,000千円																																																													
経費																																																																	
工事費	2,235,000	2,259,000	24,000	支取替等橋梁補修工の追加																																																													
用補費	1,368,000	1,340,000	-28,000	土地単価の下落等による減																																																													
その他	397,000	401,000	4,000	設計費の増等																																																													
財源																																																																	
国庫補助	2,146,000	2,322,500	176,500	国費率の増																																																													
県債	1,531,000	1,365,600	-165,400	国費率の増																																																													
その他	240,000	240,000	0																																																														
一般財源	83,000	71,900	-11,100	国費率の増																																																													
事業内容	調査設計 用地補償 橋梁上下部工	調査設計 用地補償 橋梁上下部工																																																															
事業の進捗状況	○事業進捗率 54% ○残事業費 18.5億円 ○用地補償 完了済み ○橋梁下部工13基完成済み ○残工事 橋梁下部工 (橋台1基、橋脚1基)、橋梁上部工、舗装工、融雪施設工																																																																
事業推進上の課題	○手形陸橋 昭和40年架設 (架設後47年経過) ○用地買収の難航に伴い、事業期間が延びているうちに現橋の老朽化が進展した。																																																																
関連する計画等	○平成18年5月の秋田都市計画区域マスタープランにおいて、おおむね10年以内に整備を予定する主要な施設に位置付けられている。																																																																
情勢の変化及び長期継続の理由	○平成19年9月 秋田中央道路の供用 ○平成22年度 難航していた用地補償の完了、千秋広面線のリバーシブルレーン解除 ○平成23年8月 都市計画道路明田外旭川線の4車線供用 ○平成24年7月 「エリアなかいち」の供用																																																																
事業効果把握の手法及び効果	<table border="1"> <tr> <td>指標名</td> <td colspan="3">都市計画道路整備率</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指標式</td> <td colspan="3">整備済み延長/都市計画決定延長</td> <td></td> </tr> <tr> <td>指標の種類</td> <td colspan="3">○ 成果指標 ● 業績指標</td> <td>低減指標の有無 ○ 有 ● 無</td> </tr> <tr> <td>目標値 a</td> <td colspan="3">60.1%</td> <td>データ等の出典 都市計画年報</td> </tr> <tr> <td>実績値 b</td> <td colspan="3">58.6%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>達成率 b/a</td> <td colspan="3">97.5%</td> <td>把握の時期 平成24年 4月</td> </tr> </table>					指標名	都市計画道路整備率				指標式	整備済み延長/都市計画決定延長				指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標			低減指標の有無 ○ 有 ● 無	目標値 a	60.1%			データ等の出典 都市計画年報	実績値 b	58.6%				達成率 b/a	97.5%			把握の時期 平成24年 4月																														
指標名	都市計画道路整備率																																																																
指標式	整備済み延長/都市計画決定延長																																																																
指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標			低減指標の有無 ○ 有 ● 無																																																													
目標値 a	60.1%			データ等の出典 都市計画年報																																																													
実績値 b	58.6%																																																																
達成率 b/a	97.5%			把握の時期 平成24年 4月																																																													

前回評価結果等	○ 選定または継続 ○ 改善 ● 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項 ○周辺道路の交通状況や中央街区のにぎわい創出等を踏まえた総合的な再検証を行う。 ○今後必要とされる手形陸橋の補修補強時期を考慮するとともに更なるコスト縮減の検討を行う。
	②指摘事項への対応 特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容（特記事項）	評 価 点
必 要 性	○交通量の変化：H18 237百台/日、H22 170百台/日、H24 179百台/日【H22比 5%増】 （※前回は12時間交通量を記載 H18 190百台、H22 136百台） 明田外旭川線の4車線供用（H23）及び中央街区の「エリアなかいち」の供用（H24）により、交通量が増加に転じている。 ○渋滞状況の変化：千秋城下町交差点（千秋トンネル方向） H9 500m/11分、H22 380m/6分、H24 500m/11分	24点
緊 急 性	○秋田駅周辺の鉄道断面（手形陸橋、秋田中央道路、明田地下道）で交通容量不足により渋滞が発生しており、本路線の整備により渋滞が緩和される。 ○第二次緊急輸送道路の指定路線として、防災計画上の重要路線である。 ○秋田市の主要幹線道路である都心環状道路に位置付けられている。 ○橋梁の老朽化が進んでおり、耐震補強と併せ、早急に補修を行う必要がある。 ○融雪装置の老朽化により冬期交通に支障を来している。【融雪装置H5設置(19年経過)】	13点
有 効 性	○J R 秋田駅及び秋田中央 I C へのアクセス道路である。 ○第三次救急医療施設ならびに秋田市の中心市街地へのアクセス道路である。	15点
効 率 性	○事業の費用便益比（B/C）は、1.17である。 ・総費用の現在価値C 44.6億円 ・総便益の現在価値B 52.0億円 ○本路線の拡幅事業と橋梁補修事業を一体的に行うこと等により、補修を含めた全体工期の短縮（2年）とコスト縮減（約1億円）が図られる。	18点
熟 度	○見直しの結果 ・現橋の補修との一体施工：拡幅と併せて現橋の補修を一体的に行う計画に変更 ・車線数：4車線（当初計画と同じ） ・車線運用及び千秋城下町交差点の見直し：現況交通量に対応した車線運用及び千秋地下道撤去による信号処理の変更により交差点飽和度を改善 ・全体事業費：見直し前41億円（拡幅37億円+補修4億円）、見直し後40億円（橋梁補修含む）	11点
判 定	ランク（ ● I ○ II ○ III ） 必要性が高くなり、ランク I となる。	81点
総 合 評 価	○ 継続 ● 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 依然として渋滞が発生していること並びに橋梁の老朽化が進んでいること等から、車線運用、交差点計画の見直し及び拡幅と併せて現橋の補修・補強を一体的に行う計画に変更の上、継続して実施する。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等（対応方針）

周辺道路の整備や中央街区「エリアなかいち」のオープンなどにより交通量が増加している。手形陸橋については、老朽化が進んでおり、補修・補強と併せて早急な整備が必要である。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 街路事業

事業コード (H24-建-継-01)
箇所名 (秋田市手形)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	都市計画道路の規模及び機能					
	道路の規模及び分類	主要幹線街路・都市高速道路	5	5	4車線以上かつ幅20m以上 2車線以上かつ幅16m以上 2車線かつ幅12m以上	
		幹線街路	4			
		補助幹線街路	3			
		上記以外の補助幹線街路など	0			
		都市構造上の機能	高速交通拠点と連絡する道路・都市軸道路	5	4	
			放射環状道路	4		
			都心軸を補完する道路	2		
			その他の道路	0		
		現況道路における問題箇所				
		交通容量不足 (現道混雑度1.0以上)	有り	2	0	※バイパス、新設路線については、競合する路線を 現況道路とみなす
			なし	0		
		主要渋滞ポイント	有り	2	0	
			なし	0		
		狹隘道路 (車道幅 5.5m未満)	有り	2	0	
			なし	0		
		線形不良・勾配不良 (道路構造令の基準に達しない道路)	有り	2	0	
			なし	0		
		バス路線	有り	2	2	
			なし	0		
		歩行者、自転車の交通量が比較的多い道路 (自転車歩行者交通量500人・台以上)	有り	2	2	
			なし	0		
		歩道や自歩道が無い道路 (規定幅員が確保されていない場合を含む)	有り	2	0	
			なし	0		
	人身事故発生と地点	有り	2	2		
		なし	0			
	老朽橋梁	有り	2	2		
		なし	0			
	通学路指定	有り	2	2		
		なし	0			
	交通状況の変化					
	現況道路の交通量変動 (自動車・歩行者・自転車交通量)	増加	5	5		
		減少	0			
	計		35	24		
緊急性	関連事業の有無					
	各種プロジェクト支援 (県の主要プロジェクト・地域振興プロジェクト)	有り	1	1		
		なし	0			
	大規模イベント支援 国体・インターハイ・万博など	有り	1	0	0	
		なし	0			
	公共公益施設アクセス 市町村役場・病院・学校・公民館など	有り	1	1		
		なし	0			
	他公共事業関連 (街路事業以外の事業支援)	有り	1	1		
		なし	0			
	住宅宅地開発 (300戸以上又は16ha以上)の連絡道路	有り	1	0	0	
		なし	0			
	隣接区間の整備状況					
	隣接区間の整備状況	整備済み	5	5		
		未整備	0			
防災機能向上への貢献度						
・緊急輸送路又は代替路線	該当項目2以上	5	5			
・災害避難路	該当項目1	3				
・消防活動困難地域の解消路線	該当項目0	0				
・無電柱化計画						
計		15	13			
有効性	物流の高度化と交流の円滑化への貢献度					
	・高速ICアクセス	該当項目2以上	5	5		
	・港湾・空港アクセス	該当項目1	3			
	・新幹線駅又は特急停車駅等(※)アクセス ※特急停車駅又は平均乗降客2000人/日	該当項目0	0			
	・主要な観光地へのアクセス					
	・駅前広場の造成					
	・広域道路整備計画					
	市街地の活性化とまちづくりへの貢献度					
	・DID区域内の事業	該当項目2以上	5	5		
	・市街地再開発・区画整理等との連携	該当項目1	3			
	・無電柱化計画	該当項目0	0			
	・景観や中心市街地の特色あるまちづくりに資する事業					
	・歩行者空間の確保					
	安全で快適な生活環境への貢献度					
	・バリアフリー	該当項目2以上	5	5		
・二次・三次医療施設へのアクセス	該当項目1	3				
・消・融雪施設の整備	該当項目0	0				
・堆雪幅の確保						
・道路緑化の推進						
計		15	15			

公共事業箇所評価基準

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 街路事業

事業コード (H24-建-継-01)
箇所名 (秋田市手形)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
効率性	費用便益比(B/C)					
	費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5		
		1.0未満	0			
	計画交通量					
	計画交通量	10,000台/日以上	5	5		
		4,000台/日以上10,000台/日未満	3			
		1,000台/日以上4,000台/日未満	2			
		1,000台/日未満	0			
	コスト縮減・リサイクル推進貢献度					
	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の発生抑制、再資源化、適正処理 ・リサイクル製品、再生骨材等の使用 ・新工法・新技術の採用 ・その他(具体的事例) 	該当項目2以上	5	5		
該当項目1		3				
該当項目0		0				
事業中止又は休止による影響						
事業中止・休止した場合の成果に対する影響	代替手段がなく、影響が大きい	5	3			
	代替手段はあるが、影響が大きい	3				
	代替手段はあり、影響が小さい	0				
計		20	18			
熟度	都市計画事業認可に対する事業の進捗状況					
	事業の進捗	8割以上完了	10	8		
		5割以上完了	8			
		1割以上完了	5			
		1割未満	2			
	地域の協力体制					
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗のための各種協議会等が設置されている ・地域住民の取り組みが積極的である ・市町村自ら積極的に用地交渉など事業推進に寄与している ・買い取り請求が複数ある ・裁決申請(予定含む)物件がない ※都市計画法第68条による 	該当項目3以上	5	3		
		該当項目2	4			
		該当項目1	3			
該当項目0		0				
計		15	11			
合計			100	81		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		